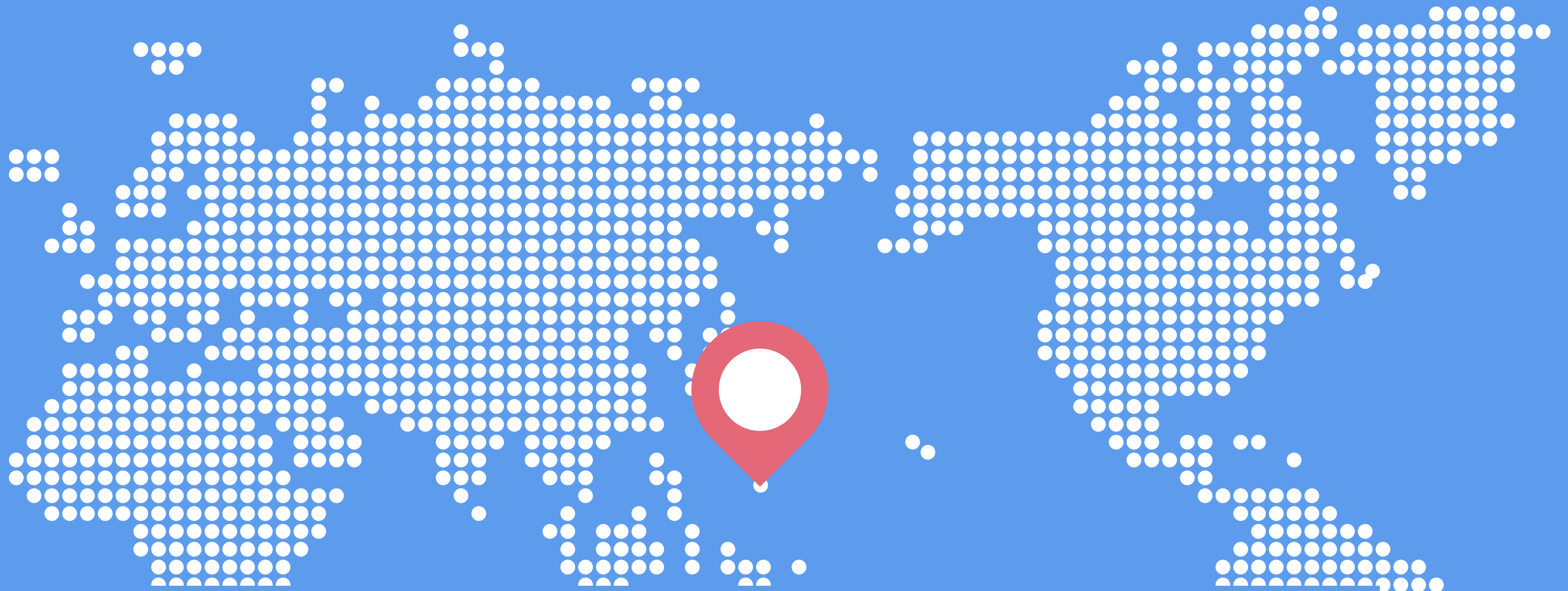


小説「新・人間革命」に学ぶ

世界をつなぐ
御書 1960
10.2~

3

アメリカ・グアムーSGI発足



• 小説『新・人間革命』第21巻「SGI」

アメリカ・グアム

1975年1月26日

グアム

- 19 世紀末、スペイン領からアメリカ領に
- 第 2 次世界大戦中には一時、日本軍の占領下に
- だっ かん 奪還をねらうアメリカ軍との間で、激しい攻防戦が展開
- 日米両軍はもとより、罪もない多くの住民が犠牲に

戦争の悲惨な歴史が刻印こく いんされた
このグアムを、なんとかしても、
世界平和の発信地に

山本伸一は 1974 年、グアムの代表と語り合う中で、「創価学会インタナショナル (SGI)」発足の構想を具体化させます。

S G I を構想したのは、核戦争の脅威^{きょう い}や地球環境の深刻な悪化、差別、貧困、飢餓^{きが}など、現代のかかえる諸問題を見ても、国や地域を超えて、世界が連帯して立ち向かわなければならないテーマであると感じていたからです。

1975年1月26日。グアムで世界51カ国・地域の代表が集う第1回「世界平和会議」が開かれ、席上、SGIが結成。SGI会長に就任した伸一はスピーチの中で次の御文を拝しました。

異^い体^{たい}同^{どう}心^{しん}なれば^ば万^{ばん}事^じを^を成^{じょう}じ

(御書 1463 ページ)

広宣流布という同じ目的を持った一人一人が、
それぞれの個性や特質を生かして活躍するなら
ば、何ごととも成就^{じょう じゅ}できる、という意味です。

伸一は、歴史家のトインビー博士が伸一との対談を通して、“将来、地球的規模で人類の統合がなされる時には、世界宗教が広まることが重要な役割を果たすであろう、と期待を寄せたことを紹介。そして、参加者に次の言葉を送りました。

山本
伸一

アメリカ・グアム（1975年1月26日）

皆さん方は、どうか、自分自身が花を咲かせようという気持ちでなくして、全世界に妙法という平和の種を蒔いて、その尊い一生を終わってください。私もそうします。

- あなたは異体同心の団結によって、どんな力が生まれると思いますか？
- 山本伸一はなぜ、参加者に「自分自身が花を咲かせようという気持ちでなくして、全世界に妙法という平和の種を蒔いて、その尊い一生を終わってください」と呼び掛けたと思いますか？

会議が始まる前、伸一は会場入口で署名をし、国籍欄に「世界」と記していました。心には国境も、民族の壁もない。あるのは、“全人類の幸福と平和のために人生を捧^{ささ}げる、との恩師への誓いでした。その思いに応えるかのように各国代表は会議で力強く語りました。

イギリス

「今、人類の平和と繁栄^{はん えい}を阻む根本^{はば}の障^{しょう}壁^{へき}は、国の違いを問わず、人間そのものの生命に巣くうエゴと増上^{ぞう じょう}慢^{まん}という魔性^{ま しょう}であります。その人間を蝕^{むしば}む、生命の魔性を打ち破る力が仏法です」

ペルー

「^{こんにち}今日の世界に必要なものは、人類的基
盤に立った新しい地球人です」

PERU

ケニア

「アフリカは旱魃^{かん ぼつ}、食糧問題等、数多くの
難題をかかえております。しかも、どの問題
一つとっても、全世界、全地球的規模で取り
組まなければ解決のつかない問題ばかりで
あります」「重大な使命を感じております」

Nationality / 国籍

世 界

セ カ イ

【参考文献】

◎『新・人間革命』第19巻、第21巻（聖教新聞社）

◎『21世紀への対話（中）』（聖教新聞社）

◎『RUN IT！ 2 心の虹をかけよう』（第三文明社）

※特集「池田SGI会長とトインビー博士の対談集発刊45周年」